

きのこに憧憬があったら森林の生活はもっと楽しかった

松田 弘義

はじめまして、私は、昨年当会に、入会させていただきました、松田と申します。私は、関西の林業家の三男として生まれ、山林の中で育ち、社会人となつては、木材の販売、木造建築、プレカットと40年一貫して木材畑を、歩んでまいりました。勤め先は、輸入木材を扱う、業界最大手の問屋でありましたので、北米材、南洋材はじめ、ソ連、南米、アフリカ、北欧など、世界中の木材を手がけておりました。

私は、主として北米材、アフリカ材を担当し、特にアフリカには、6年に渡り、買付け、検品の為に、ギニア湾沿いの熱帯雨林諸国を歴訪してまいりました。こうして、この業界から、リタイアするにあたって、永年、木材の乱伐など、自然破壊の一端を担ってきたのでは、との自戒の念もあり、いくらかでも、社会貢献が出来ればと、森林インストラクターの資格を取ることを、思いつきました。然しながら、出題範囲が、森林、林業、森林内の野外活動、安全及び教育大変広く、回答は、筆記が主体でありましたので、勉強不足に加えて、因る年並みの記憶力の低下は、如何とも抗し難く、一年目は、敢えなく玉砕、二年目にやっとの思いで、合格を果たしました。

そこでの出題科目の一つに、「きのこ」、「特用林産物のきのこ」がありましたが、この時から、私ときこのふれあいが始まりました。きのこといえば、シイタケぐらいしか判らなかった私が、ちょっと注意して、近くの里山林を歩いただけでも、多数のきのこが生えていることがわかり、びっくりいたしました。中でも、アミガサタケを見つけたときは、“これがフランス人の言うモウリュウが”と、一人で感激をしました



大台ヶ原、西大台にて

が、もう少し体系的に勉強したいと思っていましたところ、当会に入会させて頂く機会を得ました。そして、研修会、スライド会、観察会に参加させていただくことになりましたが、きのこの奥の深さと、あまりに皆様のレベルの高さに、殆ど、気後れをいたしております。

また、アフリカ出張当時、少しでも、きのこに憧憬があったら、森林の生活は、もっと楽しかったのにと、今にしてつくづく後悔をしています。とは言え、今、会の皆様方には、本当に親切に指導いただき、会の催しが楽しみとなつてまいりました。これからも、きのこの勉強を続けたいと、思いますが、勉強とは、(勉めて強いる)に替えて、＜学問に王道なし＞、もっと気楽に学習(学んで習う)に親しみたいと思います。

今後とも、皆様方には、御厚情を賜ります様、心よりお願い申し上げます。有り難う御座いました。